

家庭の生成AI利用ルールシート(A4・2枚)

といのタネ

記入日: _____ 次に見直す日:

大人の記入者: _____ 子どもの記入者:

このシートは、文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」(令和6年12月26日)の確認点を、家庭で話し合える形に置き換えたものです。学校が独自の案内を出している場合は、その内容を先に確かめてから書き込みます。

ステップ1 使うサービスを書き出す(大人・10分)

ここでやること: 家で使う生成AIのサービスを書き、規約の年齢条件と保護者の同意の要否を大人が確かめます。検索エンジンや学習用ソフトに組み込まれたものも入れます。

番号	サービス名	使う場所(家・学校・両方)	規約の年齢条件(原文を写す)	保護者の同意	学習に使わない設定を確認した日
記入例	〇〇チャット(架空の例)	家	規約〇条の該当箇所を写す	要	9月21日
1					
2					
3					

有料プランの契約と支払いの窓口(誰が担当するか): _____

ステップ2 入力欄に入れない情報を線引きする(親子・5分)

ここでやること: AIの入力欄に書く情報を、「入れない」「大人と相談」「入れてよい」のどれかに分けます。該当する列に丸を付けます。迷ったら「大人と相談」に置きます。

情報の種類	入れない	大人と相談	入れてよい
記入例 氏名・顔写真	○		
学校名・住所			
友人や家族の名前			
成績表・提出済み書類の写し			
自分で書いた下書き			
学校で配られた資料			

ステップ3 提出物での使い方を決める(親子・8分)

ここでやること: 宿題や探究などの場面ごとに、AIを使う場面と自分の手で書く場面を分け、使った日の記録を残します。学校から使い方の指示がある課題は、その指示を先に確かめます。

場面	AIを使う場面	自分の手で書く場面
記入例 探究の問いを磨く	質問の案を出してもらう	問いを選んで言い直す
調べ物の下調べ		
提出用の文章		
提出前の見直し		

使った日の記録(記入は子ども自身、大人は読むだけにします)

日付	サービス名	入力した内容の要約	自分で直した箇所
記入例 9月21日	〇〇チャット	探究の問いの案を3つ頼んだ	案2の言葉を自分の関心に合わせて直した

ステップ4 答えの確かめ方を決める(親子・5分)

ここでやること: AIの出力を使う前に、裏取りの方法を3つの欄で決めます。AIの出力は参考の一つとして扱い、最後は自分で判断します。

確認すること	自分たちの確かめ方
記入例 誰が書いた情報か(発信者)	官公庁や大学のページで、同じ内容を探す
いつ書かれた情報か(時期)	
他の情報と比べて食い違いがないか	

AIに家庭ルールの言い換えを頼むときの文(コピーして使えます)

- > 次の家庭ルールを、高校生が読んで納得しやすい言葉に言い換えてください。
- > 条件は3つです。1項目を2文以内にすること。命令口調にしないこと。ルールの意味を変えないこと。
- > 出力は、項目の番号を残した箇条書きにしてください。
- > 家庭のルール案:
- > (ここにルール案を貼る。氏名や学校名は入れない)

出力の直し方: 元の文と並べて意味の違いに線を引く。元にはない禁止や罰を削る。自分の家の言葉に置き換える。声に出して読み、守れそうか確かめてから書き写す。

ステップ5 相談先と見直しの日を決める(親子・2分)

ここでやること: 迷ったときの連絡先と、次に話し合う日を書きます。見直しの日は先に決めておきます。

- 学校の窓口の名称: _____
- 学校の案内が載っている配布物の所在: _____
- 著作権で迷ったときの相談先の候補(文化庁の相談窓口など):

- 次に見直す日: _____

見直しの日に話す3つの問い

1. AIの出力をそのまま提出した場面はあったか: _____
2. 入れないと決めた情報を入力した場面はあったか: _____
3. 窮屈で守れていない項目はどれか: _____

記入例(完成したルールの文面)

- サービス: ○○チャットを家で使う。規約の年齢条件と保護者の同意は、大人が原文で確かめて表に写した。
- 入れない情報: 氏名、顔写真、学校名、住所は入れない。友人の名前は大人と相談してから決める。
- 提出物: 提出用の文章は、最初の下書きを自分で書いてからAIに直しの案を出してもらう。使った日は記録欄に書く。
- 確かめ方: 数字や人名は、発信者と時期を確かめてから使う。
- 相談先: 迷ったら学校の窓口に聞く。
- 見直し: 学期の終わりに、記録欄を見ながら親子で話す。